

ユニセフ教室

1学年生徒を対象に、「ユニセフ教室」が行われました。この教室は、日本ユニセフ協会の「ユニセフ・キャラバン・キャンペーン」の一環で行われたものです。

日本ユニセフ協会学校事業部主任の高田承子先生から、写真や映像をもとに、世界の子どもたちが直面している様々な課題について、教えていただきました。また、実物を用いた体験を通して、さらに理解を深め、自分たちに何ができるか、考えることができました。



「水がめ運び体験」

ネパールの子どもたちが水運びに使っている水がめに水を入れた状態で持ち上げたり運んだりしてみました



「蚊帳体験」

マラリア予防のための蚊帳に実際に入ってみました



生徒の感想より

- 今回、実際にユニセフの方のお話をお聞きして、世界の戦争や貧困、環境問題は、私たちにあって他人事ではないということ強く感じた。戦争によって壊れた建物や、食べ物を十分に食べられない子どもたちを見ていると、とても心が痛んだ。そのような子どもを減らせるように、私たちでもできることを積極的に行っていきたい。
- 深刻な気候変動の様子や十分な栄養が行き届いていない子どもたちの姿を映像で見たとき、自分の生活との差が大きすぎて驚いた。地表の水を飲む子や往復8時間もかけて家族が使う水を汲みに行く子を見て、貧しい地域に暮らす人々の辛さを感じると同時に、今の自分の生活がどれほど豊かなものだったのかを再認識することができた。
- 中学校や高校の地理の学習で、水を運ぶ女の子の写真を見たことがあるが、水がめの実物を見ることができた。水を入れた水がめの重さが約15kgあることを知り、苦痛だと思った。世界には、何かをしなくてもできない人がたくさんいるのだと感じた。かつて、募金活動しても意味があるのかなと考えたことがあったが、今回のユニセフ教室に参加し、意味が分かった。
- 私たちが今、学校へ毎日行って教育を受け、安全な水を摂れていることは、当たり前のことではないということ改めて感じた。同じ地球に生きている仲間のために、自分たちができることは何かを見つけ、それを達成するために、これからもっと勉強をして、知識を付けていきたいと思った。
- 「水は教育、水は時間」という言葉が深く刺さった。水という存在がどれだけ重要で、子どもの将来に影響を与えているのかが分かった。SDGsの目標が達成できれば、水を汲むのにたくさんの時間をかけている子どもたちの時間が教育に変わり、未来が大きく変わると思った。
- 世界では、ずっと紛争が続いている地域や、きれいで安全な水が手に入らない地域、栄養不足で苦しんでいる地域など、とても大変な生活をしている地域があるということを知った。普段、私が当たり前のように学校に行ったり、水を使ったり、好きなことができたりしているのはとてもありがたいことなのだと感じた。周りに支えられているという感謝を忘れずに生活したいと思った。